

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2591800012
法人名	社会福祉法人 あすなろ福祉会
事業所名	グループホーム かがやき
訪問調査日	平成 20 年 12 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 8 日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ 滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2591800012
法人名	社会福祉法人 あすなろ福祉会
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	滋賀県犬上郡豊里町沢506番地の1 (電話) 0749-35-3015

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成20年12月24日	評価確定日	1月8日

【情報提供票より】(H20年 12月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨スレート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(11月 28日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	75.9 歳	最低	62 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	世一クリニック 塚本歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな農村地帯の中に広い敷地の社会福祉法人あすなろ福祉会がある。特別養護老人ホームいやしのさと、知的障害者通所授産施設あすなろ園とその寮、それにグループホームかがやき が併設している。瀟洒な建物の居間はホテルのロビーを思わせる雰囲気を持ったグループホームである。運営者の老人福祉と障害者福祉に対する熱い想いが一連の施設を立ち上げ、平成19年12月にはグループホームの設立に至った。事業所の大きな特徴は授産施設からの利用者が半数の4名を数え、その利用者達は施設で培った技能を生かせる事からホームを挙げて内職を支援し、利用者もそれを生甲斐にしている事である。元気老人を作ろうを合言葉に運営者の想いを職員が共有し、日々利用者の生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	平成19年12月開設の為、非該当。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	初めて自己評価に取り組み、管理者と職員は日々の取り組みを改めて見つめ直す機会となり、職員は改善に向けての具体的な取り組みにが明確になり、課題の共有化が図れている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	2ヶ月に1回、定期的に会議は開催しており、会議の構成メンバーは地域から区長、老人会長、民生委員、行政職員、有識者及び利用者家族代表、利用者代表に法人グループの理事長、特老施設長、授産施設園長、からなりホームの運営に対する意見、提案、情報等、多岐に亘り討議され、ホームのみならず、グループ全体として受け止め運営に反映をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	運営推進会議に家族代表の出席や家族の訪問時に意見交換をする機会を設けている。家族の意見、希望は職員全員が共有して運営に生かしている。広く家族の意見を聴取する為にも意見箱の設置を期待する。家族会からの意見を聴取してホームに対する更なる関りの強化を望む。
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	自治会、老人会にまだ、加入していないが、町の健康フェスティバルへ参加したりグループ全体の三大イベントにはボランティアグループ(とよさとまちづくり委員会)の全面協力の下、地域の人々が大勢参加している。あったかたん作り事業による古民家を改装をした宅老所へ利用者と訪問をして地域の人々との更なる交流を予定している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『その人らしく・健康に…快適に…安心に…』を前面に謳い、運営方針に地域や家庭との結びつきを重視した運営を行う事を明記した、独自の理念を作り上げている。	○	運営方針に記述はあるが、理念の中に地域とのつながりを明記して更なる理解を得られる様、期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を月1回のスタッフ会議(全員出席)で理念に添った接遇が実施されているかを全員で確認している。	○	毎日の業務の引継ぎ時やミーティング時にも理念の共有を図ることを期待する。理念を目につく場所や事務室に掲示して、全員が共有する事を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には加入出来ていない。母体のあすなる福祉会、合同の夏祭り、クリスマス会、焼き肉パーティには地元ボランティア組織の協力の下、大勢、地域の人々の参加がある。町の健康フェスティバルに参加している。又月1回、地域の小学校の児童達の訪問があり交流している。		地域の行事へ積極的に参加をする事を期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が10月初旬から、項目別に職員と面談しながらまとめて上げた。改善に向けて取り組むべき課題の優先順位や期間を明確にした、行動計画で実行にあたっている。	○	自己評価への取り組みにサービス向上委員会をたち上げ実施する事を期待する。まとめ上げた自己評価をスタッフ会議等に図り、職員全員が共有して運営に反映する事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催している。会議の構成メンバーは地区長、老人会長、民生委員、行政職員、有識者、利用者代表、家族代表とホーム側から成り、多岐に亘り、議論を展開している。内容はスタッフ会議で報告をし運営に反映をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連携を特に密にして報告、相談をし、適宜指導を受けてケアの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会は結成している。家族への報告は個々の家族に毎月、利用者の生活の様子を日記にして利用料の領収書、病院での外来領収書など預かり金管理台帳控えと一緒に送り報告している。		ホーム便りを発行する事を期待する。運営推進会議の議事内容を報告項目に加える事を提案する。家族面会時に報告すべき内容(マニュアル)を整備して報告漏れのない様に希望をする。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が出席し意見を表出している。家族の面会時に職員と話し合っている。外部へ意見、苦情を表出できる事を重要事項説明書に記載して説明をしている。		意見箱を設置して家族からの意見を汲み取る機会を増やす事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員の異動は無い。職員の離職を抑える為にストレスの軽減を図り(親睦会等)やる気を維持している。離職等を想定して利用者にダメージを与えない十分な引継ぎ期間を確保する事を決めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングを実施している。管理者が職員の接遇態度をきめ細かく指導をしている。法人合同の研修会に参加し、人権、虐待、感染症対応等を受講してその内容を職員は共有してスキルアップに努めている。		職員の職能に応じ、年間教育計画を策定して実行する事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。	○	同業者との交流会等に参加をしてサービスの質の向上に役立たせる様に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定の本人、家族の見学を受け入れ、利用者の生活歴等の情報の聴取に努め、それらを職員が共有して馴染みを持つよう努めている。利用を前提とした、短期入所を実施する計画をしている。体験利用は行っていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員とが少しでも話し合いの時間帯を持つ努力をしている。白菜、キャベツ、なす、青菜、等の収穫を共に行い喜びを分かち合っている。漬け物作り等の指導を利用者から受けている。調理に於いて食材の保存方法等も教わることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者と語り会ったり、そぶり、行動から意向や希望を確認している。意思の疎通が困難な利用者については日々の行動や家族から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが家族と話し合い、思いや意見を聞き具体的な介護計画は医師の指導の下、職員会議(スタッフ会議)で意見交換をして決定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の更新は3ヶ月に1回実施している。決められた期間での見直しは基より変化が生じた、緊急な対応については関係者で話し合っ臨機応変に検討、見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院や理美容への移送援助を行なっている。利用者は全員、かかりつけ医に受診しており家族に代わって受診移送、付き添いを行い、その報告を詳細に行っている。利用者個々の買い物に同行(利用者に判断能力がない為)をしている。医療連携体制加算は採り入れていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員かかりつけ医に受診している。緊急対応時には協力医に受診してその内容をかかりつけ医と家族に報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの対応はしていない。重度化した場合は母体の介護老人福祉施設「いやしのさと」を紹介する事している。	○	重要事項説明書に重度化対応についての文章を追加し、重度化対応の意思確認書を作成し、家族との話し合いを繰り返し、その都度文書化して考え方を共有する事を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、目立たず、さり気ない言葉掛けや対応をすべく、大声を出さず、言葉の語尾を下げ、『ちゃん』呼びはしない事を職員全員が実行している。個人情報書類、記録類は事務室のロッカーに保管をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを重視しながら、内職作業の出来る利用者には生き甲斐として支援している。ホームの菜園で野菜の収穫を楽しんでいる。写経、大人のぬり絵などの楽しみを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼食は利用者と職員で当番を決め調理、盛りつけ、配膳、食器洗い等を分担している、夕食は業者に委託して、盛り付けのみ行なっている。利用者と職員は同じテーブルで食事を楽しんで摂っている。月1回程度、併設施設のパーティ等で合同での食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌う人もいるが足湯等、楽しむ工夫をしている。浴室、脱衣所は暖房設備があり快適な入浴を支援している。ゆずなどを入れ気分転換を図っている。浴槽は2槽備えて仲の良い者同士と一緒に温まる事が出来る配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	法人内、障害者授産施設(あすなる園)からの入所利用者は働く事を喜びとし、意欲を保持している事から内職を支援している。調理が得意な利用者には経験と知恵を発揮して貰い、感謝を表している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添ってドライブを支援している。近くのスーパーマーケットへ日用品等の買い物に同行支援をしている。日常の散歩は隣接の運動公園と敷地内の園庭にしている。		天候の良い時はホームに隣接している宇曾川堤等の散歩が日課となる様、期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外出をする利用者がある場合、職員がさり気なく見守りをしている。敷地内は授産施設や寮があり、車両や人の行き来があって安全面に配慮して職員が夜勤シフトに入り、一人体制となる午後6時以後は鍵をかけている。		夏期の午後6時はまだ明るいし、出来る限り利用者が自由に出入りが出来る環境作りを勤務シフトの調整も含み、検討する事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6ヶ月に1回の割合で避難訓練を消防署の指導の下、特養、園と合同で実施している。今後は消火訓練、通報訓練、夜間の災害訓練を計画している。防災関係のマニュアルは整備している。法人(特養、園)の連携で防災対策は整備出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日5回の飲用で1,000CC以上の水分補給を行なう支援をしている。飲用時の都度チェックしている。調理は利用者の咀嚼力に合わせ、刻みを入れたり、根菜など柔らかく煮る等の配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く吹き抜けの天井は開放感がある。壁には造花が飾られ、ステンドグラスの窓から柔らかな光が差し込んで美しい。テーブルと大きなソファ、いたる所に寛げる椅子を配置し、ゆったりとおおらかな気分させてくれる空間である。居間を取り巻く様にオープンな廊下を隔て、居室を配置し、どの部屋も居間から見渡せる。トイレ、浴室は広く清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋風である。居室にはベッド、洋服タンスが備え付けてある。利用者持ち込みの整理タンスもある。利用者が自分の部屋を間違えない様、ドアに個別の優しい音色のドアベルや折り鶴を取り付ける等の配慮をしている。		